

**公共投資の日本型特徴**

1. 経済に占めるシェアが大きい。特に、地方での依存度が大きい
2. 社会資本整備という本来の目的以外にも使われてきた・景気対策、所得再分配(ハンディキャップ地域対策)
3. 供給効果より支出効果を重視してきた

**従来型公共投資の限界**

1. 財政の制約、更新投資の増大
2. ハンディキャップ地域への対応
3. 社会資本の効率の低下

(5) 公共事業は一時的なカンフル剤。公共事業に頼らない地域創生策が大事

**地域政策のパラダイム転換**

	従来型	今後は？
主体	国主導型	地方主導型(道州、NPOなどの新しい主体も)
目標	国土の均衡ある発展	地域資源を生かした個性的な発展
手法	公共投資、ハード中心	知識、ソーシャル・キャピタルなどのソフト資源中心
哲学	分散を指向	集中も必要(クラスター、コンパクト・シティなど)
対象地域	後進地域	伸びる地域を伸ばす一方で、取り残された地域に集中対応

変化の背景 ①キャッチアップ型発展の限界、②財政制約、③産業構造のサービス化・知識集約化など

## ●●● | 成功事例から導かれる特徴

- ① 「人」がカギを握る
- ② 民間活力の発揮が重要
- ③ 経済社会の大きな流れに乗る

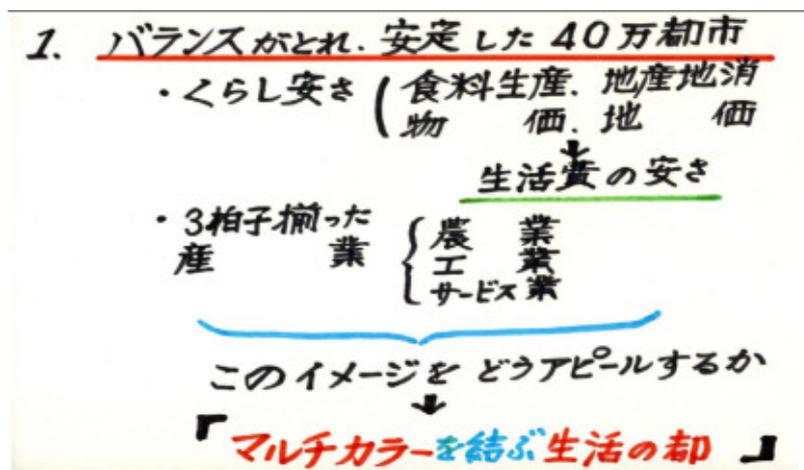
(日本経済研究センター「地域から考える成長戦略研究会」報告書、2013年3月より)

## 経済的視点からの地域問題への対応

1. 集中の背景には産業構造の変化があるから無理な分散は避ける必要  
サービス化の進展・規模の経済性の現われ  
ITC革命の進展・「暗黙知」の価値の高まり
2. インセンティブに基づいて人の移動を促進する  
構造改革で、雇用、居住地選択を流動化する必要
3. 信頼できる長期的展望を示すことにより動学的な非整合を防ぐ

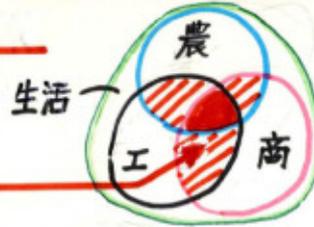
◀ 藤田佳久氏講演 「とよがわ流域の地域形成と地域像」 ▶

※愛知大学名誉教授の提案



## 2. 新たな都市機能を

1. 既存産業間のネット化  
↓  
創業、起業
2. 既存諸施設間のネット化  
↓  
新たな視点、価値



- 3 3大学, 専門学校などの知的財産活用と育成
- 4 交通網  
都市内... 歩, 自転車, 公共交通  
都市間... 豊田インターから高速道を市内へ延伸

## 3. 都市の顔づくり

品格 ( 伝統 (有形, 無形, 歴史的遺産の評価)  
文化 (余暇とおもひが文化をつくる) )

↓  
豊橋文化をつくる

↑  
( 愛知大豊橋・文学部伝統の15専攻 活用  
・ エクステンション スクール )

街の顔 タウンセンターの再構築  
市民への情報発信の場  
→ 国内外への情報発信

## 渥美半島, 渥美農業

1 世界有数の施設園芸地域 + 畜産 + 野菜

( 電照白菊中心 + 鉢物など  
近年は 洋花生産 の拡大 )

↓  
しかし, 巨大な生産地だけに留まる

2 新たな消費、付加価値を地元へ付加  
渥美をアジアのガーデニングセンターへ  
ガテンづくり, 技術, ガーデニングスクール

3 「JA 愛知みなみ」を 「JA あつみ」へ改称を